

中央電設株式会社によるライセンス教育講話

令和5年10月25日（水）、本校電気科1年生を対象として中央電設株式会社から講師を招き、電気設備業界や資格取得の重要性について学ぶライセンス教育講話を行いました。

高校に入学して半年が経過した生徒たちは、少しずつ電気の知識と技術を学んでいますが、電気業界について現場を見学することや、従業員の方から話を聴く機会は多くありません。そこで、中央電設より講師として神舎さん、高松さん、原さん(本校OB)の3名招き、「電気」がどのように社会で利用されているか学びました。

電気は生活に欠かせない重要なエネルギーであり、これからも無くならない重要な仕事ということを知り、自分たちが学んでいる知識や技術について再認識していました。

また、資格取得の重要性についても話していただきました。

資格とは、知識や技術がしっかりと身につけていることを証明することですが、電気業界では取得していないとできない仕事があり、高度な業務を行えることはキャリアアップや優遇措置につながります。そして、資格取得の勉強は仕事を行いながらでは時間の確保が難しく、学生だからこそ時間や周囲からの支援を受けやすいと教わっていました。

講話の最後には、実際に作業で使用している工具を身につけたり、本校のOBである原さんから在校生へのアドバイスをいただきました。

2年生の夏には、第二種電気工事士という国家資格に挑戦するため、今回の講話をしっかりと活かして学習に励みたいと言っている生徒が多く見られ、とても良い機会になったと思える。

○講話の様子



○作業工具を身につけた様子

